

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (2016/4/1~2016/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Clin Infect Dis. 62(2016)351-357	2013年12月11日、フランスにおいて加熱不十分のブタレバーを食した17例がE型肝炎に感染した。
2	A型インフルエンザウイルス	Emerg Infect Dis. 21(2015)1834-1836	米国の養豚システムにおけるA型インフルエンザウイルスの調査を実施した結果、有病率は冬から初夏にかけてより高くなったが、一年を通じてウイルスの拡散が続いたとの報告。
3	インフルエンザ	CDC MMWR 65(2016)146-153	米国ニュージャージー州においてヒトのインフルエンザA変異型ウイルスの感染例1例が報告された。本症例はブタとの直接的な接触はないが、発症前にブタのいる農場を訪れていた。
4	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 13 ending April 2, 2016	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスの報告。ミシガン州においてH3N2vのヒト感染例1例が報告された。この症例は発症の前週にブタとの密接な接触があったことが報告されている。
5	インフルエンザ	CDC MMWR. 64(2015)1011-1016	米国における2015年5月24日~9月5日のインフルエンザA型ウイルスの報告。インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)感染症例がミネソタ州およびミシガン州において、それぞれ1例報告され、インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)感染症例がアイオワ州において1例報告された。
6	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 21(2015)1189-1191	イタリアにおけるインフルエンザA型(H3N2)ウイルスの報告。2014年1月、イタリアで多発性骨髄腫のために化学療法を受けていた67歳の男性がH3N2に感染した。感染前にブタと接触があったことが確認されている。
7	インフルエンザ	Zoonoses Public Health. 62(2015)326-330	米国におけるインフルエンザA型の報告。2008~2012年にミネソタ州において、6例が家禽市場でブタと接触した後インフルエンザA型に感染した。
8	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 21(2015)368-371	フランスにおいて、ウシにおけるインフルエンザD型ウイルスが確認されたとの報告。ウイルスゲノムの解析から米国で発見されたウイルスと94-99%一致したことから大陸間での伝播の可能性が示唆された。
9	インフルエンザ	WHO Influenza at the human-animal interface Summary and assesment,13 June to 19 July 2016	米国におけるインフルエンザA型(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスの報告。ウィスコンシン州およびミネソタ州においてヒトの新規検査確定例2例が報告された。両症例とも発症以前にブタとの接触が確認されている。
10	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today (2016.05.14)	米国におけるインフルエンザA型(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルスの報告。H1N2vのヒト感染症がミネソタ州で報告された。感染源は調査中である。
11	インフルエンザ	proMED-mail 20150830.3612253	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスの報告。アイオワ州においてH1N1vのヒト感染例1例が報告された。この症例は発症の前週にブタとの密接な接触があったことが報告されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
12	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20151222.3885143	米国ミネソタ州において、インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスのヒト感染例が1例報告された。
13	H1N1インフルエンザ	WHO February 2016	米国において、ブタに接触したヒトのインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスのヒト感染例が報告された。
14	H1N1インフルエンザ	PIG PROGRESS (2016.01.22)	インフルエンザA型ウイルス3株(H1N1、H1N2、H3N2)が、米国のミネソタ州とアイオワ州の6つのブタ農場の動物から採取された環境サンプルから見つかった。ウイルスは、ブタ、空気サンプル、口腔液、檻の手すりから検出された。
15	H1N1インフルエンザ	PIGWORLD (2016.06.07)	英国動植物衛生庁(APHA)によると、英国におけるブタインフルエンザの診断数は、今年の第一四半期に著しく増加し、この12年で最高記録のレベルに達している。「寒くて湿気のある気候が、掃除や消毒を困難にし、寒い季節の到来が、ウイルスの生存に好適であり、感染が増えている」とAPHAは報告している。
16	日本脳炎B型	ProMED-mail 20160227.4055340	ブタにおいて、媒介生物のない状況下での日本脳炎の伝播及び感染状態の持続が確認された。
17	口蹄疫	OIE(2016年1月12日)	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。Jeollabuk-Do,Gimje-si,Yongji-myeonの農場においてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが確認された。疑い例670例、症例30例、処分例670例が報告されており、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
18	ワクシニアウイルス感染	Emerg Infect Dis. 21(2015)695-698	2010年、ブラジルにおいて、ワクシニアウイルスのヒト及びウシへのアウトブレイクが確認され、リスク上昇の可能性が示唆された。
19	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日本内科学会雑誌. Vol.104 89-85	プリオン病は正常プリオン蛋白(PrP ^C)が構造変換し伝達性のある異常プリオン蛋白(PrP ^{Sc})となり、神経細胞が変性・脱落することにより発症する疾患である。PrP ^C とPrP ^{Sc} とはアミノ酸配列は全く同一で、変化しているのは2~3次構造だといわれているが、変換のメカニズムは不明であり、PrP ^C 異常化のメカニズムの解明が治療法の開発につながると期待されている。
20	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	proMED-mail 20151004.3690131	英国におけるBSEの報告。Walesにおいて2015年9月28日の定期サーベイランス中に、死亡した6歳のウシ1例が定型BSE症例であったことが判明した。
21	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE(2015年11月30日)	カナダにおいて発生したC型BSE(定型)の最終報告。
22	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省報道発表資料(平成27年12月21日)	平成24年12月にブラジルでBSE発生が確認されたため禁止されていたブラジル産牛肉等の輸入が再開された。
23	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省報道発表資料(平成28年2月2日)	BSE発生が確認されたため禁止されていたノルウェー及びデンマーク産の牛肉等の輸入が再開された。
24	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	proMED-mail 2016325.4119524	フランスのアルデンヌ県ジヴロンの農場において、1例のBSE症例が報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information Vol.29	フランスにおけるBSEの報告。フランスにおいて、雌ウシ1頭が不全麻痺を発症し屠殺された。迅速検査の結果2016年3月8日にBSE陽性と判断され、2016年3月21日に古典型BSEであることが確認された。
26	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2016.01.19)	ノルウェー獣医学研究所は、FSA(ノルウェー食品安全局)に対し、家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)がブタのサンプルから検出されたとの警告を出した。LA-MRSAは、その後、1月15日に中部ノルウェーの農場で確認された。
27	レンサ球菌感染	感染症学雑誌. 89(2015)741-744	日本における豚レンサ球菌(血清型2型)によるトキシックショック様症候群の報告。養豚業の71歳男性においてStreptococcus suisが同定され、トキシックショック様症候群と診断された。
28	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20160708.433306	中国における豚レンサ球菌感染の報告。痰、めまい、耳鳴り、難聴を伴う頭痛と咳で入院した患者の血液及び脳脊髄液から豚レンサ球菌が検出された。患者は生鮮市場で食肉処理業者として働いており、発症の2、3日前に指に擦過傷を負っていた。
29	サルモネラ症	PIGWORLD (2016.03.16)	英国のブタにおける急性サルモネラ症の報告。水様便を認めたため、ブタ流行性下痢(PED)が疑われたが、PEDウイルス検査は陰性であり急性サルモネラ症と診断された。
30	大腸菌感染	ProMED-mail 20151219.3875812	E.coliからのコリスチンに耐性のあるMCR-1遺伝子が中国で発見され、アフリカ、ポルトガル、デンマーク、英国等の各国でも相次いで発見された。
31	大腸菌検査陽性	http://www.cidrap.umn.edu/news-perspective/2016/05/highly-resistant-mcr-superbug-found-us-first-time	米国において、コリスチン耐性遺伝子(MCR-1)を有する大腸菌がヒトの尿およびブタの小腸から検出された。米国における初めての報告である。患者は過去5ヶ月間米国外へ渡航しておらず、米国外で感染した可能性は低いと考えられた。
32	大腸菌	NHS choice (2015年12月22日)	英国におけるコリスチン耐性細菌の報告。英国において、2012~2015年の症例の細菌サンプル2万4000件中15件においてコリスチン耐性細菌が発見された。
33	炭疽	ProMED-mail 20160331.4131177	ウクライナにおける炭疽の報告。Kharkiv oblast regionのChuguev districtにおいて、地元の農業従事者により飼育されたブタにおいて炭疽が発見された。ブタ屠殺時に、脾臓が異常に肥大しており、検査によりブタの炭疽感染が判明した。
34	炭疽	ProMED-mail 20160413.4156862	インドにおける炭疽の報告。インドのOdisha, Koraput district, Boipariguda blockのDangadhar村において、2日間で1世帯においてヒト2例が炭疽により死亡した。死亡したのは45歳の女性および12歳の娘と特定されている。同村で炭疽に感染した残りのヒト4例は重体である。また、インドのOdisha, Koraput district, Boipariguda地域において、炭疽により少なくともヒト4例が死亡し、重体の5例を含む残りのヒト11例が感染している。村民らは死亡したヤギとブタの肉を摂取した後、感染したことが報告されている。
35	レプトスピラ	Zoonoses and Public Health. March 11,2016	米国ハワイ州における野生ブタのレプトスピラ感染の報告。ハワイ州の野生ブタにおけるレプトスピラ抗体の保有率を調査した結果、ブタ血清から最も頻繁に検出された血清型はIcterohaemorrhagiae及びBratislavaであった。
36	旋毛虫症感染	Zoonoses Public Health. 62(2015)285-291	2012年11月、イタリアにおいてイノシシ肉の生ソーセージを食した34例が旋毛虫症に感染した。これらの症例のうち32例が症候性で、2例が無症候性であった。